JAだよりおおがた
Ogata
9
SEPTEMBER
2017 No.530

特集 ＪＡ大潟村　臨時総会 04

今月の表紙　蓮（ハス）

８月19日、南の池公園内にある「大潟小学校ハスの花パーク」で、濃淡様々なピンク色の蓮の花が咲き乱れていました。

不浄な泥の中から茎を伸ばし、清浄で美しい花を咲かせる蓮は極楽浄土に最もふさわしいとされ、古くから神聖な存在として、仏教と非常に深い関わりを持つ植物です。

今月号の主な内容

02　あぐりプラザ情報・健康百科
03　女性部活動だより
06　おぉがたな話題・営農だより
07　インフォメーション・理事会報告・青年部活動報告と予定・職員人事
08　フォトニュース

JAグループ秋田キャッチフレーズ
いいねをいっぱい届けたい
JA大潟村

あぐりプラザ トクトク情報

★ポイント３倍デー

9月15日㈮・25日㈪ 予定

★たまごパックの回収始めました！

要望がありました、たまごパックの回収を行っております。東側入口風除室に回収カゴを設置しておりますのでご利用ください。

なお、回収出来るパックは決められております。回収場所の表示をご参照のうえ、ご協力をよろしくお願いいたします。

★百円均一コーナーがパワーアップしました！

棚が一列増え、内容がより充実した百円均一コーナーを、皆様ぜひご利用ください！

★８月12日、恒例の長崎産本まぐろ解体実演販売にたくさんご来店いただき、ありがとうございました！

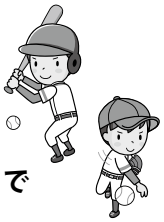
あぐりプラザおおがたの配達サービスをご存じでしたか？

当店でお買物していただいた商品や、電話等で注文していただいたビール・飲料などを、無料でご自宅までお届けするサービス（定期配達）を行っております。車での来店が出来ない方、外出が難しい方はぜひご利用下さい。

※配達時に配達員が、直接商品の代金を受け取ることはできません。お支払方法については、注文の際にあらかじめお知らせください。

配達日 月曜日から土曜日（日曜日は配達お休みです）

※ただし、部活動・大会等のお弁当類は日曜日でも配達いたしますので、どうぞご利用ください。



配達時間 午後３時から午後４時半頃まで

【営業時間】
午前８時30分～午後７時（日曜日も営業しております）
お問い合わせは生活課（45－2214）まで。

健康百科

脳梗塞を防ぐ

佐久総合病院名誉院長
松　島　松　翠

脳卒中に注意が必要なのは、冬だけではありません。夏にも起こることが多いのです。なかでも脳梗塞は脳の血管が詰まって起こる病気ですが、夏に詰まることが多いのです。

なぜ、夏に詰まりやすいのでしょうか。それはまず、脱水による体内の水分不足が挙げられます。気温が高いと汗をたくさんかきます。そのため体から水分が失われ、脱水状態になって血流が悪くなり、血栓ができやすくなるのです。

それに夏の脳梗塞は、夜間に多く発生します。これは、就寝中に脱水が起こりやすいことや、夜間は血圧が下がることと関係しています。

予防対策としては、まず脱水状態にならないように、小まめに水分を摂取することです。夏は食欲が落ちて、食べ物からの水分も減りやすい傾向があります。さらにお年寄りは、脱水状態になっても喉の渇きを感じにくくなっています。従って定期的に水分を補給するようにした方が安全です。

日本酒やビールなどアルコールは利尿作用があるため、脱水がひどくなります。寝る前に大量のお酒を飲むのは危険です。

夜間トイレに起きないようにするために、寝る前に水分を取るのを我慢する人がいますが、これはかえって危険です。睡眠中は汗をかく上に、水分が取れないために、脱水が促進します。夜間の脳梗塞発作を予防するには、寝る前にコップ一杯の水かお茶を飲むようにするのが良いでしょう。

風邪などの感染症を起こすと、血液が固まりやすくなり、脳梗塞が起こりやすくなります。夏風邪を防ぐことも、脳梗塞を予防する対策の一つといえます。

第398号

女性部「活動だより」

☆これからの行事予定

◎10月１日（日）　新米祭りに女性部でブース出展
申し込みは栢森まで

◎11月22日（水）　バレーボール大会　（２ポイント）
個人会員の方もチームを組んで参加してください

◎12月８日（金）　女性部研修　（２ポイント）
「遺伝子組み換え食品の怖さ」

★活動報告と各種会議報告

◎第60回秋田県ＪＡ女性大会並びに秋田県家の光大会（７月20日）

秋田市文化会館大ホールで開催され、女性部７名、フレッシュミズ６名が参加しました。

県役員を６年以上務めた三村敏子前女性部長が、ＪＡあきた女性協から表彰され、ＪＡ秋田中央会から感謝状が贈られました。三村前部長はこの日残念ながら欠席でしたが、長きに渡る大役、大変お疲れ様でした。

次に、「家の光」記事活用体験発表が行われ、県内８ＪＡの代表者がスクリーンを使って発表しました。どの方も「家の光」の購読歴が長く、頭の下がる思いでした。毎月楽しみにしているコーナーがあったり、自分の楽しみから家庭や仲間づくりにつなげたり、さらには、地域にまで拡大させていくという実践報告はレベルの高い素晴らしい発表でした。機会があったらぜひ一度は参加していただきたい大会でした。

発表終了後、「ニコ・ニコおむすび大作戦」の動画撮影に協力しました。会場で、大きなおにぎりのプレートを掲げ、「ニコニコ」「大作戦ー!!」と全員でコールするという企画で、事前に知らされていたため、スムーズに運びました。ＪＡ女性協や家の光協会の主催で、おむすびを２個作って誰かに食べてもらうことで米の消費拡大だけでなく、仲間を増やしたり、農業や地域を元気にしたりするという、おむすび活動を展開中です。今回はその中の、動画コンテストに応募するというもので、個人で応募するものもあるようです。

午後は、行政書士兼社会人落語家の生島清身氏が、落語家・天神亭きよ美として「天国からの手紙」と題した落語と、行政書士として相続・遺言・エンディングノートについての講演を行いました。暗くなりがちなテーマを前向きに明るく伝えることに挑戦中ということで、この組み合わせは初めてで新鮮でした。

最後に、午前中に発表した方々の講評・表彰を行い、「明日、輝くために」を全員で斉唱して幕を閉じました。

いつかＪＡ大潟村からも体験発表者が出た際は、応援しに行きたいと思います。　（鈴木信子記）

行政書士兼社会人落語家の生島清身氏による講演

女性部の皆さん

フレッシュミズの皆さん

◎野菜栽培活動グループ・じゃがいもの収穫（７月30日・８月６日）

春の植え付け時には、ひもを張って等間隔に印をつけてきれいに播きました。しかし芽が出る前に畑が耕起され、じゃがいもが二度播きされるハプニングがありました。

芽が出てみると、重なったり、途中から交差したり、ひどいじゃがいも畑でした。

でも、野菜を育てる会員の熱い情熱が伝わったのか、立派なじゃがいもに生育してくれました。暑い日のいも掘りとなりました。　（Ｊ・Ｅ記）

◎野菜栽培講習会（７月31日）

13名が参加しました。これから栽培する大根・白菜・小松菜・越冬人参・たまねぎ・ニンニクの栽培方法、籾殻堆肥の作り方と連作障害について、営農支援課の宮国職員・林職員に講義していただきました。

越冬に向く人参の品種、生食と加工に向くたまねぎの品種なども教えていただき、これからの参考になりました。おいしい野菜ができますように!!（Ｋ・Ｉ記）

講師の営農支援課・宮国職員（写真左）と林職員（同右）

◎新たなコメ政策確立に向けた秋田県生産者大会（８月17日）

平成30年以降の水田農業対策をめぐる情勢報告に始まり、副知事と国会議員６名の挨拶がありました。

国に対して、需要に応じた生産を徹底し、農家の所得向上等を実現するため、水田農業政策を総合的に充実・強化することを訴えました。また、３名による決意表明で、30年以降は交付金が無くなる不安などを訴え、生産調整に対する優遇措置や転作作物への補助金の維持などを国に強く求めることを採択し、出席者約1,000人でガンバローを三唱しました。

記念講演は、冬木勝仁氏（東北大学大学院農学研究科教授）による「激変するコメ政策と産地の取り組み～どうなる、どうする水田農業」でした。このような大会には、参加する機会が少ないので、良い体験ができました。　（齊藤美智子記）

◎盆踊り大会（８月18日）

今年も参加しました。テーマは、「大潟美人米」おにぎり大作戦です。家の光大会で使ったおにぎりのプラカードを頑張ってデコレーションして、それを付けて踊りました。サンドイッチ状態なので、少々踊りにくさはありましたが、おいしいごはんのアピールをしました。

残念ながら入賞できませんでしたが、11人が参加し、楽しく心地よい汗を流しました。

東２－６婦人会が優雅な踊りで２位を受賞しました。参加してくれた方々、ご苦労様でした。
（山本嘉子記）

女性部の皆さん

東２－６婦人会の皆さん

特集

JA大潟村臨時総会

～村の重要なライフラインである「生活店舗」を守るため、遊休地にコンビニを建設・運営することを決定～

ＪＡ遊休地である、コンビニの建設予定地および発展構想計画用地

8月25日、ＪＡ会館大会議室で臨時総会を行いました。当日の出席状況は、正組合員1，100名のうち本人出席94、委任状10、議決権行使書914となりました。

議案は「平成29年度事業計画の一部変更の件」の1議案と付帯決議で、審議の結果全て可決となりました。

第1号議案　平成29年度事業計画の一部変更の件

◆変更理由

ＪＡでは、大潟村のライフラインを担う重要な位置づけとして、組合員・利用者から強く要望されている生活店舗（あぐりプラザ）存続のため、継続的に「店舗事業改革」に取り組んでいます。

そのような中、大潟村による定住者利便性向上事業「コンビニエンスストア」出店事業者の公募が行われ、ＪＡも応募しましたが、残念ながら選定されませんでした。

ＪＡでは、ＪＡ以外の事業者がコンビニ運営することにより、生活店舗が受ける影響は甚大であると考えています。

臨時総会の議案である、ＪＡによるコンビニの建設・運営は、生活店舗の存続を目的とした案であり、生活店舗部門として総合的な黒字を創出するための第一歩です。

今後の「店舗事業改革」については、店内レイアウトの変更、テナント等の誘致、商品構成の見直し・検討、さらには組合員・利用者の皆様からの要望等を取り入れながら臨んでまいります。

また、コンビニの建設予定地は発展構想計画用地として、コンビニ以外に皆様が求める利便性のある事業の展開を検討し、相乗効果により収益性の向上を図ってまいります。

議長を務めた岩井悠宇氏（東２の４）

あいさつする小林肇組合長

臨時総会提出議案

議案

第1号　平成29年度事業計画の一部変更の件

付帯決議

年度途中で、事業計画の一部について軽微な変更を要するに至ったときは、理事会で当該計画の変更ができることをご承認願います。

その他

総会参考書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当組合のホームページ（http://www.ja-ogata.or.jp/）に掲載させていただきます。

ご参加ありがとうございました

質疑の中で皆様からいただいたご意見を、一部紹介いたします。

Q「村にコンビニが2つできれば、つぶし合いになることを村民は心配している。JAは、村によるコンビニ出店事業者の選定からはずれたが、コンビニ建設を急いで決めるのではなく、もっと時間をかけて野菜販売やコインランドリーなど、コンビニありきではない、別の方法を考えても良かったのでは?」

A JAでは、①収益性を上げるという観点。②遊休地活用の拠点とするために有効という理由。から、まずはコンビニの提案をさせていただきました。

平成30年以降の事業計画では、農産物販売所やコインランドリー、コイン精米所、朝食を食べられる所を設置するなど、様々な発展計画を承認していただけるように議論の場を設け、皆様からの意見を幅広くいただきたいと考えています。

Q「平成元年に村が100%出資してできたのが㈶大潟村観光物産公社。平成8年にホテルができ、村が60%出資して第3セクター方式で運営しているのが㈱ルーラル大潟。その後第3セクターの整理統合でこれらが一つになり、現在の㈱ルーラル大潟となった。実質的オーナーは社長である髙橋浩人村長と、会長である宮田正馗元村長だ。これはつまり、『コンビニ経営を㈱ルーラル大潟がやるということ=村がやるということ』を意味している。今回のように、村がJAの経営を圧迫する状況になってしまっているのが非常に悲しい。」

A JAも同じ気持ちですが、まずは生活店舗を守るため、我々で何ができるのかを考えた結果、①コンビニ経営をやるリスクよりやらないリスクの方が大きいと判断したこと。②遊休地有効活用のため発展計画を立てること。の結論に至りました。JAでコンビニを運営することと、それに伴う発展計画は大潟村内の相乗効果ととらえ、進めていきます。また、村からも何らかの行動があればうれしいです。

Q「村とJAは、こういう事態になる前にお互いもっと話し合い、仲良くやってほしかった。」

A JAはこれまで、譲歩するところは譲歩してきました。コンビニ運営をどの業者で行うことが、大潟村にとって一番良いのかを十分に考えた上で、選考してほしかったと思います。JAと村がもめるという事ではなく、切磋琢磨しながら、組合員の農産物を積極的に販売する場を考えていきたいと考えています。

Q「収支を見る限り、月9万円の収入となっているが、これは店舗改革でクリアできる数字なのでは?」

A コンビニを運営した場合はそのような試算ですが、もしもJAがコンビニを運営しない場合は、年間の売上で5千万円、利益で1千万円落ちると予測しています。今回コンビニ業者の選定から外れてしまいましたが、遊休地有効活用の良いきっかけと前向きにとらえ、今後はコンビニだけではなく、その他の有効活用事業でさらなる相乗効果を見込んでいます。

Q「組合員・村民の台所を守るということを、組合員・村民自身がもっと考えなくてはならないが、『店舗改革』の内容がJAからあまり聞こえてこない。コンビニを先に考えるのではなく、店舗改革を練り上げてからにするべきでは?」

A JAでは、例えコンビニの問題がなかったとしても、店舗改革を進めていかなくてはいけないと考えています。しかしながら、㈱ルーラル大潟のコンビニは10月には完成するとの話が聞こえており、すぐにでも店舗に影響が来るため、急いで対応を考える必要がありました。

店舗については我々の努力だけではなく、皆様から利用していただくことが重要です。なぜ店舗が必要なのかという根本的な議論を、女性部・フレッシュミズをはじめとするいろいろな方々と、店舗のあり方などと一緒に議論していきたいと考えています。

また、遊休地有効活用の発展計画については、店舗改革とは別に進めていきたいと考えています。

皆様からたくさんのご意見やご要望が寄せられました

JAは、組合員の皆様の営農と生活を守るため、今後も皆様からのご意見をいただきながら、役職員一同努力してまいります。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

おおがたな話題

第９回　30年産以降のコメ問題を考える　Ⅰ

コメに関して政府は、平成30年産から生産数量目標を配分せず、米の直接支払い交付金10a当たり7,500円を止めるという。目標配分については、農業再生協議会などで予行的に取り組まれ、突然に大きな混乱が生じるとは考えにくい。だが、交付金廃止についてはどうだろうか。端的にはそれによって米づくりがより経済的に不利になり、米を止めても、野菜や飼料用米等に転換されなければ、それは耕作放棄地の増加に直結するだけだ。転換を進めるインセンティブはぼやけてはいないか。

それなら、なぜ、7,500円を廃止するのか。政府は、その理由を「諸外国との生産条件格差から生じる不利はない」と「構造改革にそぐわない面がある」の２つに求めてきた。だが、それは本当か。私は、納得できる説明に出会ったことがない。

先日、米・伊・日の稲作生産費用の事例比較結果に接した。それによると、10ａ当たり投下労働時間は1.7・2.24・4.91と、日本の大規模経営も省力化しているが、隔絶差を形成しているのが水管理作業（0.28・0.81・2.00）、それは1筆圃場差16・2・0.7haなどの「生産条件差」に基づくものであった。また、前身の戸別所得補償政策では、受給者数の3.5％に当たる５ha以上層に１戸当たり約188万円、全額の４割強が支給された。稲作農村安定の助けとなり、中大規模層に規模拡大意欲喚起の役割を果たしつつあったと、私は思う。

いま、水田作経営の収益構造は驚くべき状況にある。全国最上層、20ha以上層の2012～2015年の４か年平均で交付金込み1,284万円だが、交付金を抜くとマイナス94万円、交付金依存度が107.4％だ。それだけに大潟村の人たちのフロンティア・スピリットへの期待大だが、そのことは次号で取り上げたい。

〈つづく〉

秋田県立大学名誉教授
佐藤　了

（さとう　さとる）
1949年秋田県生まれ。北海道大学大学院農学研究科博士課程単位取得。農林省農事試験場、農林水産省農業研究センター、東北農業試験場で試験研究に従事。1997年に秋田県立農業短期大学教授に就任。秋田県立大学生物資源科学部教授、学部長を経て、2014年３月定年退職。専門は農業経済と地域計画。

営農だより

※このコーナーは隔月で掲載致します。園芸作物の栽培に取り組む生産者の紹介は今回お休みします。

水稲の刈取予想日について　～あきたこまち：９月25日頃～

あきたこまちの出穂期は平年に比べ３日遅れ（８月７日）となり、出穂直後に一時低温があったものの、８月の気温は概ね平年並みで推移しました。また、日照時間も概ね平年並みで経過しており、８月下旬以降は気温が平年を下回る日が続いていることから、登熟はそれほど早まらないものと思われ、出穂後の積算気温から見た刈取開始は、**あきたこまちで９月25日頃**と予想されます。

刈取予想日は積算気温から到達日を予測したものですので、刈取判断としては**籾の黄化程度90％以上を刈取りの目安**としてください。

積算平均気温での刈取予想日（９／５以降は平年値で計算）

品種名	出穂期	積算気温到達日	刈取予想日
たつこもち	８月４日	９月16日～９月22日	９月18日
あきたこまち	**８月７日**	**９月22日～９月28日**	**９月25日**
ゆめおばこ	８月14日	10月８日～10月14日	10月11日

品種名	出穂期	積算気温到達日	刈取予想日
ときめきもち	８月16日	10月13日～10月18日	10月15日
きぬのはだ	８月16日	10月13日～10月18日	10月15日
萌えみのり	８月16日	10月13日～10月18日	10月15日

刈取判断の目安

①出穂後日数
早生早（たつこもち）：出穂後45日頃
早生晩（あきたこまち）：出穂後45～50日頃
中生晩（ゆめおばこ）：出穂後50日頃
中生晩（きぬのはだ）：出穂後50～55日頃

②出穂後の積算気温
早生種：950～1,050℃　　中晩生種：1,050～1,150℃

③枝梗の黄化程度
「主軸の上から５番目の枝梗まで黄化した頃」

④最終的には籾の黄化程度90％（黄白＋黄色）で決定する。

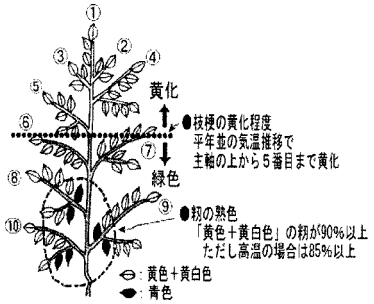


図　籾の熟色、枝梗の黄化程度による刈取適期の判断（模式図）

Information

「パンプキンパイ」パッケージリニューアルしました！
あぐりプラザ限定品です

長年にわたり愛され続けてきたＪＡ大潟村パンプキンパイが、よりご贈答用に最適なパッケージへとリニューアルしました。引き続きご愛顧をお願いいたします。

個包装10個入り　1,198円（税込）
個包装15個入り　1,748円（税込）

購入された方からは、「おしゃれで高級感がある」、「かわいくてお土産に持って行きたい」と好評をいただいています

（写真上から時計回りに）２箱か３箱購入された方に差し上げる紙袋、15個入り箱、10個入り箱

お問い合わせはあぐりプラザおおがた（45−2214）まで。

大潟ミニバススポ少が大潟カップで準優勝しました！

第29回大潟カップ招待ミニバスケットボール大会が８月19日に村民体育館で行われ、県内の６チームが熱戦を繰り広げました。大潟ミニバススポ少は予選リーグを１位で勝ち上がり、決勝で森吉ＭＢＣに17対51で敗れ準優勝となりました。

皆様の熱い応援ありがとうございました。

予選リーグ	大　潟	41−21	飯　島	（秋田市）
	大　潟	39−26	西仙北	（大仙市）
決　　勝	大　潟	17−51	森　吉	（北秋田市）

キャプテンの三浦真子さん

準優勝おめでとうございます！

ＪＡ大潟村の概況　29年８月末現在

貯　金…264億9,962万円　正組合員数……1,100名
貸出金…　79億4,952万円　准組合員数……　39名
出資金…　9億3,185万円

理事会報告

８月21日開催

報告事項
- 業務報告（７月末事業実績等）
- コンプライアンス委員会報告
- 法人向け運転資金貸付要項の一部変更について
- 個人情報保護法に基づく公表事項等の一部改正について
- ＪＡＳＴＥＭシステム基盤更改危機管理計画書（ＪＡ版）の制定について
- ＪＡＳＴＥＭシステム基盤更改窓口業務継続策（ＪＡ版）の制定について

議　　案
第45号　固定資産の取得について
第46号　貸付金について
第47号　理事会議事録の閲覧請求について

－五城目警察署からのおしらせ－

秋の全国交通安全運動の実施

★運動期間★　**９月21日（木）～９月30日（土）**
※９月30日は「交通事故死ゼロを目指す日」

★運動の重点★
1. 子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
2. 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗車中の交通事故防止
3. 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
4. 飲酒運転の根絶
5. 横断歩行者の交通事故防止（特に、横断歩道における歩行者優先の徹底）

五城目警察署　TEL 018−852−4100

青年部　活動報告と予定

随時部員を募集していますので、興味のある方はぜひＪＡ大潟村営農支援課（TEL：45−3033）までご連絡ください！

●活動報告
８月２日（水）　麻雀交流大会（秋田市）
８月16日（水）　盆踊り出店
８月20日（日）　アゴラ広場野菜販売（秋田市）
８月22日（火）　ゴルフ交流コンペ（男鹿ゴルフクラブ）

●活動予定
９月の活動予定はありません

職　員　人　事

退　職　**８月31日付**

組合員の皆様、ありがとうございました。
三　浦　冨美子（生活課・臨時職員）お疲れ様でした。

たまねぎ生産組合
たまねぎの出荷始まる

大潟村をたまねぎの一大産地にすることを目指し、12農家と2団体が6月に設立した「たまねぎ生産組合」は、7月26日からJA農産物集出荷所でたまねぎの出荷を始めました。

この日初出荷した、たまねぎ生産組合の菅原和幸組合長は、「うちのたまねぎはやや小さめで残念だったが、無事出荷を迎えることができて良かった」と感想を述べました。

出荷されたたまねぎは卸売業者を通じ、秋田県産「潟たまねぎ」として、県内の学校給食などで使用されます。

たまねぎ出荷のピークはお盆前まで続き、今年は約7,400kgの出荷量を見込んでいます。

「潟たまねぎ」は秋田県内の学校給食などで使用されます

高品質で市場の評価上々
くり大将かぼちゃ出荷

大潟村特産であるかぼちゃが、7月後半から8月にかけて収穫最盛期を迎えました。JAの集出荷場には7月27日から、かぼちゃがつぎつぎと運び込まれました。

特産かぼちゃ生産組合（吉原忍組合長）が生産している品種「くり大将」は、多収と良食味が最大の特長で、名前のとおり甘くホクホクとした食感です。今年は57農家とJA青年部・農業近代化ゼミナールの2組織が約15㌶で栽培し、品質・収量共に例年並みとのことです。

生産量の約8割を首都圏中心に出荷し、残り2割は村の名菓「パンプキンパイ」のあん用に出荷します。

大潟村のかぼちゃは担当検査員による全量検査なので、傷みや病気のあるものは全て取り除かれます

市場のしくみを知ろう
JAキッズスクール

生活課では8月3日に「JAキッズスクール」を開催しました。大潟小学校5年生14人が秋田市公設地方卸売市場を見学し、農家の作った野菜や果物がどのような経路をたどって店頭に並ぶかを学びました。

この催しは、次代を担う子どもたちの育成事業の一環として毎年夏休みに行っているものです。

施設のうち、低温センター（輸入された果物を保管する場所）の内部に入った子どもたちは「こんなに寒いなんて」と驚くなど、普段はなかなか見ることのできない市場を興味深く見学しました。

国内外から集められた青果物に興味津々の子どもたち

JA健康寿命100歳プロジェクト
JA大潟村グラウンド・ゴルフ大会

JAは8月23日、第4回JA大潟村グラウンド・ゴルフ大会を大潟村グラウンドゴルフ場で開催し、村内在住の54人が参加しました。

この大会は高齢者福祉対策の一環として、JA健康寿命100歳プロジェクト活動の促進をはかるため、毎年開催しています。上位10名は、10月に行われるJAバンクあきた主催の全県大会に出場予定です。

▽優勝・佐藤友男さん▽2位・谷直方さん▽3位・三浦サチさん▽4位・齊藤チナさん▽5位・寺田光雄さん▽6位・三浦重夫さん▽7位・佐藤シヅヱさん・▽8位・高木茂夫さん▽9位・工藤兼雄さん▽10位・佐藤正則さん

選手宣誓する高木茂夫さん（写真左から2人目）

プレー中のスナップ